

主の御名を賛美致します。

私は神戸でマナ助産院を開業しております永原郁子と申します。昨年9月から思いがけない妊娠で途方に暮れる女性や、育てることができないと追い詰められた女性のために24時間体制で相談をお受けする「小さいのちのドア」をスタートいたしました。来所、電話、ラインなどを通して、9カ月間で700件の相談をお受けしました。中にはいのちに関わるような相談もありました。また産むか中絶かを迷っている女性からの相談も沢山お受けします。

日本では16歳から49歳までの女性の6人に一人は中絶の経験があるとのデータが厚生労働省から出ています。そしてその7割が罪悪感にさいなまれているとのこと。平成28年の中絶の届け出数は約16万人(一日に約460人)しかし実際はその2倍以上とされています。その半数以上が10代20代の女性です。サタンにとって日本の若者を神さまから引き離すことなど容易なことです。

若い子たちが性的罪を犯し、神様から引き離されてしまうことがないように、私は助産師仲間と20年間性教育をしてきました。また2016年の日本伝道会議が神戸で行われた時から、クリスチャンのための「いのちと性の大切さを教えるための講師養成セミナー」を水谷潔先生と藤田桂子先生と共に行っています。これまでに神戸、東京、福岡、仙台、北海道、大阪と6か所で開催して参りました。いのちと性の大切さが書かれている聖書を持っているクリスチャンなら語れるはずですし、語らなければならないのです。そして全国各地でクリスチャン講師がいのちと性について語る時、主は必ず働いてくださり、日本の若者を救ってくださると確信しております

菅原早樹先生は大阪で開催されたいのちと性のサポートミッションの講師養成セミナーに参加して下さり4日間学んでくださいました。そしてすばらしく完成度の高いプレゼンを披露してくださいました。(修了証書をお渡ししております)教会に通う青年たちにすぐにでも語っていただきたいと講師陣は祈っておりますし、用いられる機会が多く与えられますようにと願います。

また小さいのちのドアのアンバサダーとしての役割も担ってくださる予定になっております。小さいのちと女性のいのちを守る場所があるという情報を、必要としている方々にお届けしてさせていただきます。

このような、いのちと性の大切さを教える働きと、実際困った状況に陥った子どもたちを救う働きをこれから菅原早樹先生が担ってくださることに期待し感謝しております。

2019年5月19日

マナ助産院 院長  
一社) 小さいのちのドア代表理事  
いのち語り隊代表  
神戸大学大学院保健学研究科臨地教授  
永原郁子